

■第1回司法関連統計共同研究（モンゴル・ウズベキスタン）を実施しました

令和5年2月28日（火）から3月7日（火）まで、第1回司法関連統計共同研究を実施し、研究員として、モンゴル国立法律研究所から5名、ウズベキスタン共和国法執行アカデミーから5名が参加しました。

本共同研究では、刑事司法に関する統計データの収集、統計データに基づいた資料作成に関する諸問題について、制度上、実務上の問題点の検討や比較研究を行ったほか、データを用いた最新の犯罪予防等について我が国の知見を共有しました。

講義では、拓殖大学<sup>もりやま</sup>守山正名誉教授、警察大学校警察情報通信研究センタ

<sup>のたかやす</sup>一野貴泰教授より、近年、いくつかの都道府県警察において運用がなされているAI等を用いた犯罪予測の仕組みやその利点、今後導入するにあたっての留意点などについてそれぞれ御解説いただきました。

さらに実際の取組として、京都府警察では、2016年より独自のアルゴリズムに基づき犯罪発生危険性が高い場所を分析する犯罪防御システムを導入して効率的かつ効果的なパトロール活動等を行っているところ、研究員は京都府警察本部を訪問し、京都府警察刑事部刑事企画課主席調査官捜査支援分析センター所長より同システムの概要や同システム導入が犯罪の抑止につながったことなどにつき御解説いただいたほか、京都府警察岡崎公園前交番において、同システムを用いたパトロール活動のやり方について御解説いただきました。



【岡崎公園前交番において説明を受ける研究員】





【岡崎公園前交番での集合写真】

龍谷大学法学部浜井浩一教授からは、「証拠に基づく政策立案のための犯罪統計」と題し、犯罪白書や警察白書等の統計資料をいかに読み解くか、その背後にあった政策決定の例や、我が国と各国の犯罪統計の比較等につき詳細な解説がなされ、その後、議論が行われました。

そして、我が国の法務総合研究所研究部研究官より、我が国の犯罪白書の構成や薬物犯罪等具体的な統計資料についての解説がなされました。



【浜井浩一教授の講義風景】

また、本共同研究期間中に「モンゴル・ウズベキスタンにおける近年の司法制度改革」と題する公開セミナーも開催し、モンゴル国立法律研究所 エルテム オンダラフ フレルバータル所長、ウズベキスタン共和国法執行アカデミー エフゲニー コレンコ所長代行より、両国における経済の自由化に対応し、投資環境を改善するための法改正や組織改編、人材育成のあり方についてそれぞれ紹介がなされました。



【講演を行うモンゴル国立法律研究所長】



【講演を行うウズベキスタン共和国法執行アカデミー所長代行】





【法務省赤れんが棟共用会議室での集合写真】



【法務省赤れんが棟前での集合写真】